

自由連合

Libera Federacio

1971年
5月20日

Nº 28

自由連合社

〒545 大阪市山崎3-54-15

電話 1264
大阪 自由連合社

七生亡國ハ七度生まれ
変わって國を亡す。あた
しや忘國・國なんか知ん
ない。ナンセンス。シユフ。

宣言の無い闘い 金ヶ崎メーデーの記録

本件申請に引ける集団示威行進（以下「示威」という）は、いわゆる「あいりん地区」の中でも最も事件が多発し、過去における大規模な集団暴力事件および道路上における悪質な群衆集結の中心となつてゐる区域で行われるものである。

同地区の特異性、本件示威申請団体と其関係にある団体の性格および申請団体に対する住民ならびに一部労務者の感情等を勘案するとき、本件示威が端緒となつて集団不法事案が惹起されることは、過去の事例に照しても明らかである。このことは、まさに公共の安全に差し迫つた危険が明らか認められる場合に該当するものであり、よつて当公府委員会は「行進及び集団示威運動に関する条例」へ大阪府条例第14号「オ4条に基づき不許可とした。

「昨年メーデー示威不許可理由書より」
昨年のメーデーは示威の許可が降りなかった。その理由は、前出不許可理由書に明らかになつた「不穏」の一語に尽きる。その後一年、あいりん総合センターの開設を一つの契機として金ヶ崎の状況は大きく変わつてゐる。失業保険の認可を始めとする労務者管理の方向性がそれだ。資本側は権利をエケとして与えることで、金ヶ崎労務者の定着化を期待するようになつた。そうした資本側の要求にこたへ、革新知事の誕生は矛盾するものではなかつた。

その一連の事情は今回の示威申請を契機にした。金ヶ崎をスチ抜き、国鉄新今宮駅前解散という一キロ少々の行程に問題はなかつた。あえて問題にされたのはセンターを

「あほくさ」

その日の朝は緊張感とともに明けだ。労務者の密で場あいりん総合センター一階は奇妙な光景を呈してゐる。

一階を恐れる御奉行様のおふれで出たのだから、いつもはドラムを張り上げて人寄せをする支配師の姿はあまり見えない。仕事量はいつもの半分以下だろう。人夫を送り出すマイクはバズは七時前には完全に音を消した。足元に散在するビラ。仕事が無くなつて立ち去らぬ労務者の面を全港労組建設支部面成分会のマイクの音がぬる。

「今日は労務者のお祭り、メーデーです。七時から三角公園で集会が始りますので皆さん参加して下さい」

七時を少し過ぎた三角公園は普段とあまり変わらない。それでも境には「オ二回金ヶ崎メーデー」という文字が用意され、数本の旗が立てられてゐる。「金ヶ崎解放」と白抜きされた水色の大きな西成分会旗をばじめとし、同じ建設支部の三座分会、南大阪青年労働、そしてあのハズは日中正統も見える。

人が集りだしたのには集会の始つた七時半頃からだ。メーデー宣言の入ったビラを配りながら話しかけてみる。

「おっさんも入いれやレ」
「え、なんぼか出るんか」
「何言うてんのや、こんなんも自分でお金出してやるもんやレ」
千人はいるだろう。しかしその

多くは観客のように何かが始まるのを待つてゐるようだ。そしてその中には、ビラを渡すことをはばからねばならぬグレイは靴をはいた人種へ私服も多くいる。

メーデー宣言を採択し、示威に参つたのは九時を少し過ぎていた。「アホクサ、ヨリモンばかりやないか」「カッコーわるいなし。そんな声も聞かれない。しかし一担公園を出ると二団の後続部隊が自然と形成されていった。通称「金ヶ崎銀座」の狭い路上を四百名程の示威が、そしてそれをとりまく人波が地すべりのようにはつて行く。隊列の頭上には「ピンハネ支配師自決」「女帝返せ」「メシ代げろ」といったスラカードののびのびとけり、なかにはムシロ旗もある。

「ビビ」。西成署の前でストップ。「ホリ公出て行け」のシュスレヒコールがドヤ街にこだまする。頑丈そうは建物窓にはホリが鈴なり、そしてニヤニヤ。その余裕は警備にはつきり示されてゐた。西成署から少し進んだ所で隊列の中の一人の労務者が手に持つ紙袋で警官に殴りかかた。殴られた警官は表情も変えず顔をそむけるだけだった。警官としての一つ一つの言動が何につなかりうるが知つてゐたのだから。少数の風潮はろう人形はついて歩くだけだ。「不穏」この元凶が消えた時示威はお祭りに変つていった。オモロイオツパンが先頭に飛び入り。「ワッショイ、ワッショイ」。その跳びはね踊るの「こうは楽しさそのもの」。

「おっさんも入いれやレ」「よしよし、共に肩組み、声をはり上げ足並みの揃ぬぬきま進む隊列？」
センターを一周し、解散を目前にした時、隊列の先頭はセンターの中へと方向を定めた。押し返すでも引き下がるでもない警官。あとのタタリを恐れる全港労働面成分会のエライさんの防衛に気をそかれ、隊列は空気の抜けたまま解散せざるを得なかつた。

あまりのちがいに

統一集会へ向う段になると作業衣の数は増えていた。総計二百以上という予想以上の（へん員に続く）

(前頁よりつづく)大所帯にその意気は大いに上る。その意気は決一会場につくやいなや警察のこころを起こした。

大阪城公園入口の警備にあたる若い警官は金ヶ崎の隊員が常に見えの仕方を知らなかつた。横断歩道を渡る途中で変わった信号に不安を感ずた。忠実であることな反感を買った。このことは知っていたが知らぬが、その反感の重なりあつた。

「早く渡らんねえ。その金切り声の主はたまたま取り囲まれ、押し返された。あわてて集って来た他の警官ともこころを合はなれぬ。一人は殴られ、二人は持つて行かれそうになる。そのうち突門警備。仲間仲間仲裁もあつてこの場は納まりそうになった。しかし改められたアングロの誰の説得もきこうとはしない。

「ワイはハンバモンへ半行極道や。そやけど一生けん命生きてきたんや。そんなワイはなんぞ殴られるあはん。殺したる」手をゆるめると警官に飛びななりそうは假をなだめすかし、引きさするうちに隊列に追いつくには時間なかつた。

統一会場は地下足袋を奇異に目える程華やかなり。色とりどりの帽子、いつものことながら榮作人形。革新知事誕生のため目立つみどりのシンボルマーク。何なら何さで金ヶ崎の隊列とは無縁のものを。

「五ヶタアツツ吾輩貫徹」
「日当三千円とせ」
「誰でも入れる公営住宅を」
「じゃ代下下ろ」
「アメリカはベトナムから出て行け」
「革新知事勝利の口を更」
「ン？」

カメラは外側から向けられ、シャッターは切られる。
「なんじゃい、なんじゃい。変な目付きで見てやがって。お前何にも仕事しとらんくせに」
「やめとけ、やめとけ」
「あいつら言うにらなれならんのじゃ」

会場内を金ヶ崎の隊列は常に鬼っ子であつた。その子もはコースを渡らず、近くの人壁は障害物としておぼえて行く。新知事や

ルマに仕当り。嫌な顔付きをするホワイエローラーを叩きのける。
自らを金ヶ崎の人間たらしめる場であることをはっきり意識した時、鬼っ子とあつたるを感ぜぬ金ヶ崎の人間たち。汗ばくでデモ指揮をする人間に「どないしてワケ晴らししたええんじや」とをいふ時、そのウケ晴らしの行状を正確に抱き合っていることに気付くべきだろう。

道路は解散区

会場からのデモでは面成解散同盟の後ろにつくことになった。隊列は終始、合理的で知覚的な動きをした。信男前、あるいは前後の隊列の間隔がつかない時は座り込み、一服。煙草をくゆらせながら前の隊列が離れるのを目定める。先行な距離になること、いくぞの号令のもと、道路はつばいに広がり全連を進む。歩く時は四列でも五列でもない。好きな間隔で歩きたいように歩く。又一服、そしてたけ足。その時はやはり道路は解散区の様相を呈していた。

コースの三行の二は過ぎただろうな。一台のバスは隊列の前に割り込んで来た。「差別や」と一人の若者が叫ぶ。この声は会場に全員ハスの前に座り込み。ハスのボディを殴る者もいる。運転手はいくらもアップセットでも座り込みはとけない。たまりなれた警官は最後まで座り込んでいた一人に突門行使に出る。警官の手はその体に触れようとした時、すかさず他の若者は急迫して、警棒を取り上げ、帽子をはねおとした。その警官は血の気を無くして逃げだした。

その獲物目ざし、そのすごいスピードで道路をいっばいに逆走した隊列。必死で逆走を止めようとする者、武器にするためラポートの板をはずす者もいる。逆走のハンマーやハンチに、他の警備にあたっていた警官はすっ飛んだ。おそろく殴られた意味を理屈するに時間ななつただろう。道路上は混乱した。追われた警官は他の警官の隊になくれている。

ひさびさの満ち足りた感とともに隊列は組み直され前進しはじめた。解散地点に到着するまでにもう二度はなり、こぼり合いをくり返した。
解散後、金ヶ崎の隊列は大きな拍手で迎えられた。それは若者一人一人にまで伝達したことのないうた

きな感動を呼び起こした。専ら、たと歩くその者は勝利者の凱歌を奏するものなかつた。

行状そのもの

華やかな、それゆえ向かいにくいこと、更難行としてのメーデーでは、金ヶ崎の若者らは部外者でしななかつた。革新知事誕生祝賀会としてのメーデーなどおろそかにする所ではなかつた。

そのエネルギーは途切れることなく、警官のささいな言動一つ一つに敏感に反応する。普段あまり語らうとしない彼らは、この日語るべきことを行状として表わした。この計り知れぬエネルギーこそ彼らの生活の重なりだと言つてよいだろう。
幸な不幸な一面の警官とのこぼり合いはマスコミに取り上げられなかつた。もしんば取り上げられたとしても正当な評価を受けることはななつただろう。「若者、騒ぐ」として空気に市民社会に解消されていくにはなない。

昨年12月に起った二つの抗議行動は印象的であつた。一つは沖縄コサ事件、もう一つは金ヶ崎のセンタ一使き打ち事件である。この二つの暴動は決して同じ評価を受けることのないまま忘れられようとしている。前者への評価は「抑圧された人達への同情」というポーズを取った。それはあくまで「海の向こうの問題」である。その無責任さは個有名詞として、あるいは抽象名詞としての「金ヶ崎」を定きつけられる時どころも暴露される。それは金ヶ崎は日常化する問題であり、自分自身を抜きにして語ることをできないならである。「抑圧された人達」という言葉を金ヶ崎の若者たちに発するならば「抑圧者」としての可能性を持つ自行に気付くだろう。差別意識は自らの日常を媒介に形成されるものなのだ。

若者たちのみなさん頑張つて下さい。と社会党の宣伝カーが金ヶ崎の若者に呼びかけようとして、答える者は一人もいない。メーデーは向うことを宣言する場だといつても、宣言を必要とする者も一人もいない。金ヶ崎の若者にとって、破壊すべき日常に怒りを示す行為そのものはない。怒りを示すことに宣言はいらないのだ。
(くちくちるナカおる)

《忠誠》への叛逆

叛軍への一視点として

戦争——革命戦争の問題を抽象論理の命題として考えたり、展望と称して観念的遊戯にふけたりすることは、われわれの今の必要を満たしてはくれない。ここでは「叛軍闘争」の論議の中から出てきた問題を手がかりに、「戦争」とそれをになう「軍隊」を考えてみたい。

小面誠の叛軍

反戦自衛官として登場した小面誠は、軍人には「死生観」が必要であり、それは「忠誠心」と密接に結びついて軍隊を支えている、と言う。軍人である限り「忠誠心」を要求されるのなら、問題は何を「忠誠」の対象にするかにかかってくる。彼によれば、口レタリアートである自衛隊兵士は「自らの階級を忠誠の対象物としなければならぬ」。それが彼の目指す「赤色軍人」である。

つまり「叛軍闘争」とは「マルジョア国家に奉仕する軍隊である自衛隊を口レタリア階級に奉仕する軍隊である赤軍に組織がえする」ことであるらしい。その発想の中には、「戦争」「軍隊」「武器」さらには「忠誠」「奉仕」「命令」の原理が、マルジョア帝国主義者の発想と何ら異なることなく貫かれている。

小面の言う「忠誠」も、彼自らが叛逆した天皇制構造と同質の信仰のように思える。ドグマ（教条）や権威に対する弱さは、日本的マルクス主義の一貫した特徴である。マルクス信仰・前衛党神話は、戦前の天皇制信仰と同じ土壌にある。

面を求むる「忠誠」

小面の「忠誠」や三島の「大義」は、自らが信じ込んだ時にはじめて意識される。絶対的真理・絶対的価値への服従が、判断する主体者の信仰にかかっているとは、何という皮肉だろう。

ステイルネリアンのアナキストなら、自己への「忠誠」を言うだろう。この限りに於ては、自らを直接守る権利としての武器は認められる。国家によって規制的非暴

力状況を強いられているわれわれにとって、このような国家や軍隊によって代替されるものではないからだ。

しかし、自己に対するへとりわけ思想信条に対する「忠誠」もまた未来に於ける可能性と絶対自由を閉鎖してしまう。このことは「忠誠」自身のもつ絶対的限界として認識しておく必要がある。

また「忠誠」は要求されるものとしてもある。国家は物理的強制力をもって「忠誠」を要求し、神や天皇、それにおそらくは小面の言う「口レタリア階級」は、心理的強制力をもつて「忠誠」を要求してくる。そして他でもない「軍隊」がその具体的物理的強制力として登場する。これまでの歴史からも明らかのように、「軍隊」とは想像もつかぬほどの物理的強制力と破壊力を不可知のものとして宿している。だからこそ「軍隊が忠誠を要求し、その軍隊が忠誠を支えられている」という構造が問題にされねばならない。

革命への途

軍人には決定的な生活不在、生産労働不在がある。そのような軍人が口レタリア意識をもつというのはまさに意識の問題である。生活不在の、物理的強制と破壊を目的とした職業に従事している人間の意識を私は信用できない。むしろこのような人間の言う「革命」が恐ろしくさえもある。

そのことから、私はスウェーデン革命における自主管理の事実注目する。自主管理は、口レタリアートに或いは「人民」という概念が、とにかく「口レタリア階級」に対する対立概念であるだけでなく、官僚——口レタリア官僚に対する対立概念でもあること、それ故にわれわれの革命もあらゆる強制力と命令機構を拒否したところにはかないこと、を示唆してくる。自主管理は、いかに評価してもしすぎることはない。

「忠誠心」の対象をとり替えることでは革命には近づけない。むしろその「忠誠心」を利用して、その装置へあるいは武器としての軍隊を管理しようとするあらゆる企てに

対しての根底的な問いを抛まなければならない。「自衛隊解体」の「ス」は、一歩は、あらゆる軍隊の拒否として、さらに「ディカル」なものに書き替えねばならない。

革命をたんに政治機構の改革とするなら、革命戦争もそれを担う軍隊も、それなりに意味があるだろう。しかし、革命を新しい社会・生活・人間性を作り出すものとするなら、「革命戦争は革命の墳墓である」（モーヌ・ウェーユ）と言える。

国家・軍隊——忠誠を要求してくるものに対する内部的な叛逆、構造的な問いが最後の革命への途ではないだろうか。

(星関 弘)

信 告 板

すけじ ゆうる

5/29 MOJO WEST 16

京大西都講堂★隔週+曜 四〇〇円

6/5 水俣山上映会

。東京葛飾公会堂大ホール 開場5時半★二五〇円

↓江東区大島2の3の2 米津方戸駒恒世

鹿野島医師会館ホール

↓日26・8668 映茶

↑つぎの「気付実行を

6/6 水俣山上映会（鹿野島）

伝習館処分一周年記念集会

九大記念講堂★10/18時

二〇〇円★講演報告討論

↓柳川市一新所ノの5伝

習館救済会

6/11 水俣山上映会

福岡明治生命ホール

↓福岡市天神ノの15の3

創言社

6/13 インドシナ反戦春季総反力

（東京）横田基地包囲デモ

目標・創意ある非暴力直

接抗議行動を多様に組合

せ、当日の基地機能を完

全にストップさせる。

↓練馬区大泉学園所

和田友付大泉市民の集い

（7月）

この欄「伝言板」としての用を

なすように、「すけじゆうる」を充

更しただけです。あなただけの集

会・催し・デモも何でも知らせて

下さい。その月の20日から翌月一杯

を基本とし、10日を目安に連絡して

下さい。↓大阪市旭区大宮二郵便局

留・自由連合大阪宛。

先取りとしての

野戦病院

今回の強制代執行阻止闘争では、現地に設置された医療救済、通称「野戦病院」が大活躍した。昨年の強制測量に際しても、医療班が結成され、各団結小屋にたてこもったが、今回はあらかじめ駒井野田結小屋のとなり、野戦病院のテントがつくられた。しかし実際は、予想を超えた大闘争・大弾圧になり、野戦病院はフル回転の活躍をする事になった。

二三日の経緯

二月一四日に設置された野戦病院は、闘争の現場に於ける医療機関としては、今までに見られなかったものである。このような医療救済活動の経験は、今後の大衆闘争にとって貴重なものとなるだろう。さらに、百名前後の人々が共に生活し、共に活動するという意味でひとつのコミュニケーション的経験ともいうべきものであった。

アメリカ人のコミュニケーション運動の失敗例によると、失敗は「だれがぶつれた血を洗うか」という、もっともささいに見える問題からだという。この点、炊事班は野戦病院を支える重要な役割を果たした。

しかし、この問題の解決は炊事班なのだろうか。取巻にいたM氏はこう語っている。

「全共闘を経てきた人間と、市民運動やってきた人との決定的隔りを感じた。例えば、水平連の女の子なんだけど、メシタキだけに来る。その人は「これも大事なことでしょ」って言うわけ。しかし三里塚へ来て、百姓と話もしない。激突の現場へ顔出したこともない。それじゃ意味ないんじゃないか。メシタキは俺たちです。ローテーション組めばやっていける。って言うたら、彼女泣いて帰って。二、三日したらまた来まして。って、やっぱりメシタキだけやってる。」

異議を唱へ

「この野戦病院も、当初は五覚派救済連合であった。しかし、向もなく全国各地からノンセクトが集

まり、全構成員は七〇〇百数十名にも上った。タルーも奥にさまであった。中核、四トロ、フロント、青解、M.L.、平連、CATS、コミユニカマル、横浜自連、看護反戦、青医連……。これほどの異議同歩も珍しい。各タルーの話を聞くのは楽しく、毎晩あちこちのテントで議論に花が咲いた。

しかし、大世帯になるにつれ、毎夕雨かいていた全体会議は行なわれなくなっていた。そして、命令系統が確立する。野戦病院は、医療班、炊事班、自動車班などに分かれていた。この各班から反対同盟と学生各一名の代表者が出て代表者会議を開く。みんなはこれをホス会議と呼んだ。ホス会議での決定が各班のメンバーに降ろされてくるわけである。ホス達は、これを「命令系統」と言って全く取じなかった。

30日頃、つもりつもった不満が爆発。大論争が巻き起こり、久し振りに全体会議が開かれた。夕食抜きで夜中の一時までけんけんがくびく。

「救対は体を張って叩いてる部分とは別で、救対の仕事だけしてあればいい、という考えをやめよ」

「共に叩く者に対しては、融通のきく限りの援助をせよ」

「命令系統は判ったが、下から上へのチャンネルはどこにあるの」

この会議を通じて、お互いの立場を判り合え、大胆に討論を行なうムードができた。その後は、夕方早く班会議を開き、それをふまえてホス会議、翌朝報告、という形になった。また全体会議も定期的に行なわれるようになった。これは大きな成果である。

ある面での協力

雨の日に於て、ノンセクトはヒクトを起した。しかし、負傷しても救対を通さず三里塚を去っていったノンセクトも多い。これは、一つには救対の技能を弱め、またノンセクト活動者の闘争意識を低める結果をもたらす。持続的闘争を展開するためには、自己と救対との関係をどうえ直し、負傷・弾圧を救対に集約しなければならぬ。それは三里塚に闘争者としての義務である。

現在、野戦病院のテント跡には、

反対同盟によってふしハマが建てられ、その一角に救対の現地部隊が陣取っている。

六月に予想されるオニ次強制代執行の闘争現場は、四千米滑走路全域に広がった多数の拠点である。今回より多数の人員、施設が必要となる。あらゆる面での協力を訴えたい。

※この記事は、①「三里塚闘争救済ニュース」20号 ②「死守戦」1号 ③岩国のドクトル・シバ氏の投稿、から構成したものです。

④千葉市稲毛海岸5の5の2の406 海辺一衛気付三里塚闘争救済会

⑤山武蔵野市境南町1の2の14、東山カオルカコミユニカマル東京支社

三里塚へ行く人は……

「ノンボリの君ですが、穴を掘らして下さい」と駒井野田結小屋を訪ねた。そこで幹部らしき人の尋問が始まる。

「どのセクトの紹介ですか？」

「自分一人の判断で来ました」

「このことを何で知りましたか？」

「新聞です」

「現地の人を誰か知ってますか？」

「いいえ」

「どういう目的で来ましたか？」

「三里塚闘争を勝利させたいので何か手伝いたいと思って来ました」

「今頃来たって、もう塹壕の中へは入れませんよ。今頃から入ろうなんて全く甘い考えですよ」

こんな調子で身元調査が行なわれ…… (ドクトル・シバゴ)

どのセクトにもタルーにも属していない人が、三里塚へ行った時はまあこんな調子らしい。

そこで、柳川派の柳川のおっかあ派を自称するM・H氏は、ノンセクトの受け入れ体制をつくらうと努力している。既に現地では、実際の闘争の中からノンセクトへ元全共闘などの運動体が形成されつつあると聞く。H氏は、東京で「動ける人」を捜し、連絡をとった後、再び現地に帰った。

六月代執行を控え、現地に行く人は連絡をとってほしいとのこと。山武蔵野市取巻7の2の2、大木よね「取巻」

自然農法の論理

生命体としての自己の発見

現代の科学農業に於て、それ以前に農業（農法）を拡張し自然農法と呼ぶ場合もあるが、私はここに「自然」としては、人間にだけ生きているわけではなく、いわずとも自然一人として生きているんではない。

自然に溶け込むということとは、人間であるまに生命体としての自己を発見するということである。自然な生命体である時、私はこの生命を燃やすだけだ。当然、私は生命の母である大自然の一翼を担いたい。

自然界に生きる人間

肥料もやらず農薬もかけない、それは自然農法というところまではない。自然農法の結果の一面として、私にしろも大自然の生んだ生命体であるならば、その生命をどんな風に燃やしていくか。自然農法はこの具体的な一つの道だ。

自然の営みは複雑にみえあつて、雑草と呼ばれるものも美しい花も、大きなものも小さなものも、強いものも弱いものも、病害虫と呼ばれるものも益虫と呼ばれるものも、みんな生きられるようになってくれている。なんぞ人間はなりあかなく他を押しつけて生きているものか。

生きのびるために

日本の農家はたいへん土地が狭い。百姓だけが生き延びていくとしたら、少しも土をたくさん作らなければいけない。その上、小人数で作業をこなさなければならぬ。一人一人も、少しでも省エネしようと思えば、化学肥料に頼らざるを得ない。その結果、弱肉強食の作物だ。それを商品として維持するには、どっぴりと農薬につけなければならぬ。あさけにどうしようもない農政。外資が入れば、量が多ければ良い

んだという社会。農家が生きるためには、さすくても見えないもの、をたくさん作らねばならぬという現実が存在する。

人間と他のいろいろな生物とが、自然に生きるために、生きのびるために自然農法を考へざるを得ないところまで生きている。人間は自然に生きているものとして、人間をどうしようとする危険さえ抱えているのだ。

△CAMARADES! 4号

横浜市南区中島町2の23
藤田太郎方 COMPANY ANGURA
再び。寿。とは。その歴史的背景、沖縄の友より、朝鮮民主主義人民共和国商品展覧会、過去から、群狼(3)日本の演劇について、人間関係、つれづれなるままに

北海道千歳市清水町4の1千歳
栄光教会青年部からしんぶん
創刊辞/三月二四日、ついに
こと、話したこと、考えたこと
ノ晚歌・藤圭子のノぼくたちの恋ノ無題

北九州市八幡区岸の羽之の4の8
朝鮮人密航者にふれてノ恋唄ノ庭屋にけいまるノ土着精神と流亡の精神の根源的エネルギーノ沖縄通信(6)ノ私たちにノ意識空間の総合性——谷川健一ノ沖縄・辺境の時間と空間にふれつつノ眩暈

2 板言

しゅつぱんつ 備北開拓共同体

共同性は基本的に、それそれ自分、その口マンをいかに生活として表現し得るかにある。それは人間の生き様であり、開拓様である。ある男が云った、「今の俺たちにはドラマがない。邪宗門にみられるような。真剣に肉に直してみよう。今のままで直接にヘリコプターは現出するだろうか。社会革命とは内容的にどういうものか。圧倒的な資本主義機構のなかで、生産者、消費者、流通機構、の三つの流れのなかで、家もある、国もある、労働力もある、日と夜もある、昼と夜もある、大衆市場もある、都市と農村もある、自然と人間もある、自然村を創ろうと集まった、その機関誌「きさいち通信」や一号。

自然村は 京都川を渡る

鳥取市戎町3-2 若井康子 気付
政経を失った人たちが中国山脈に自然村を創ろうと集まった、その機関誌「きさいち通信」や一号。

DISTURBANCE

広島県呉市市松町2-18 庄
「夏の陣」を企てたらしい人たちの詩とつたの雑誌。投稿者は本荘から福岡までに見えている。

△反入管なごや NO2

愛知県刈谷市井ヶ谷町4-2
桜島荘 桜井在賢付
反入管名古屋連絡会議
アピールノ高校生と朝鮮人問題ノ男から「女のぐち」への問いかけ

ほつこま

ハタ

平町琴平郵便局私書箱14号
すぎ・たけし
東京都板橋区向原3-7
B23岩切方ヤスクニ通信社 価30円
(スウェーデンの制約で、内容紹介できませんでした)

岡山市部行政と私

二・三年前、岡山市内の天満屋へどこの都市にもあるような百貨店へ入社試験を、岡山大学の卒業見込み学生が受けたが駄目だった。その学生はエタか非人か、まだその下か、メディアアティックな言葉で言えば部落民ということだったらしい。

宗門極め過五人別帳

昔は、人間面した奴等や非人面と名付けられた人間達が、オフレと風俗習慣という強制で登録するが宗門極め過五人別帳というものがあつた。どこか村役場、町役場でも持っていたらしい。終戦後、マッソーサーというアメリカ人が「そんなものは焼いてしまえ」と日本全国に命令した。その時点で大方は焼かれたと聞いたが、完璧ではなかった。

岡山市役所は、マッソーサーの命令に背いて、そいつを隠しもつていたわけである。いや誰にでも公開していたというから大和魂は強いぞとねえ。先々学生がそのことに気づき、反人部解放同盟有志の支援をうけて、天満屋前で怒りの抗議デモを行なった。その後、岡山市長と岡山市地方事務局長宛に抗議文を出した。

一年もゴチャゴチャもめただろうが、市長が「マスコミも騒ぐ」とだし、俺の顔を立ててくれしとか言つたのだらう。事務局長は、「今回宗門極め過五人別帳は焼却処分します」と心に決めた。例の学生が入社したかどうかは知らないが、抗議行動はそれで終つてしまった。

その後

私の叔父は事務局長と懇意ならざるを得ないある社会的地位にいたため、その後の事実を多く知っていた。その後の話では、局長は過五人別帳を市役所から取り上げてはいないようだ。これからその当分の間は何かの人を通じて市役所で見てくれるという。

岡山在住の人は、今は何りの私直探偵とか興信所とかを使つて目玉え、すぐわかることだ。多くの会社屋さんも愛用している。私

の別の叔父が私立探偵をやっている。実は、私から一族をその何なのですかね。
「早く取り上げんといかんんだが、どうも市長がねえ」と局長の愚痴。まったく、そのためにどれだけの人々の心が傷んできたか、その歴史の重さは街の一角どころではない。町の川向こう東側で、三野公園の裏に成石一帯、市中心部の西川公園一帯を歩いていただければわかるでしよう。

叔父と私

先々叔父が、その地位で大日本帝國に貢献し続けているのは、悪意な事務局長の口で、いつの日か五人別帳を焼却処分してしまおうという魂胆からだとかいう。それを聞き、一瞬私は改竄図争ということについて考えさせられた。しかし、善が更で、その悪意の局長は転勤して行った。

私は五人別帳の被害者ではない。私から一族は自己防衛のために同族会社をやっているし、そうではなくて私は人部解放同盟を受けない。被害者意識ばかり強いものでは此岸の問題とはならない。団結の統一の再建のため、調子の良い司令は、彼岸の更に遠方から小さく聞こえるだけである。

私はひと月前に、出家した。同族が私をつき動かしたのだらうか。このレポートだけでも、どうも言えるだろう。私は部落とは言いにくい。革命と言おう。そのために私は、一面ではとつてもやさしい私の一族、それ以上に頼しいはずの父母と姉妹と祖母を捨てた。逃げたと言つてもいい。

これ以上書くと、ますます私事に限り自虐にふけりくはないようないで、この辺でレポートから逃げよう。

(長嶋 善治)

おぼろ

手描き、画用紙四ツ切一ありです。極少数です。御希望の方は早目に一五〇円以上のカンパと共に申し込んで下さい。自由連合大阪宛。

埼玉へ平連の選挙戦術 そのエピソードは、
我々埼玉へ平連は、浦和市議選に独自候補を立てた。結果は最高得票で大勝利。選挙サンセンズという前に、可能なことはすべてやってみるべきではないだろうか。

選挙運動をする中で、いろいろ考をさせられることがあつた。選挙を利用して、我々の主張を聞かれた場で表現することができる。考えてみれば、今までの自争は、すべて閉ざされた世界の中でのことにすぎなかったようだ。選挙に限らず、開かれた場に出て出ることが必要だ。アナーキーな社会を指向して選挙運動をやった我々の今後を期待して下さい。
(浦和 N・I)

大阪A研資料NO1
麦社社会革命の綱領の続編に当る、ロックスの国際聯合の綱領規約後半部の復刻海賊版。原本は殆んど入手不可能なため、二〇〇円でお願ひする。自由連合大阪気付A研資料部

自連の監獄を啓発する
27号、27号既報の平和台病院闘争のゆづりレット。三〇〇円(十別) 大阪市旭大宮二郵便局留自連大阪

読者会
27号で書いた読者会を五月九日(阪神)一六日(神戸、大阪)と行ないました。六月は六日(京都)一三日(神戸、大阪)の予定。詳細は追つてお知らせします。他の地域で読者会を開きたい方、御連絡下さい。

編集室

※注意 先日京都からの葉書に不足料金として16円取られました。理由は郵便番号記入欄に値上げ反対と記入することへのイヤカラセにすぎません。葉書きの上半分に文章を書くことはダメでも、下半分は大いにケツコウ。太マジックでベツタリやりましょう。例の欄は口かをきけいはいでしよう。マークは文章じゃはいもんね。クレカレも御注意を。(ハハある しもじよう) 編集部フーテン永弾劾。ザビートルズ、クリーム、バナナ・リッパ、レッド・ツェッペリン粉砕。(かわさき、なあき)

遊びのへいさ

ア・ン・ケ・ン・ヤ・

自連号の「遊びのへいさ」の回復を（尾関氏）への反響は多かつた。このことは、自連記者個人の関係している運動の行き詰まりの状況を反映していると言える。尾関氏に對する言ひは、ほぼ半々である。批判には「遊び」や「へいさ」の概念の違いが目につく。

「田子の浦の市民集會で、漁民のオッサンが『学生なんて、ヘルメットがぶって棒もって、この忙しい時にウロウロするが、何の役にも立たぬえ』と言った。このオッサンのどこに「遊びのへいさ」があるのか。権力との緊張関係に位置しているオッサンは、学生運動は「遊び」だという論理をもっている」というY・K氏（飯塚）のアンケがそのいい例である。言葉の概念は尾関氏自身もあいまいなようだ。

彼の言う「遊び」とは、悲愴やかたくなさの反意語、一種の樂天主義とされる。つまり、彼は、現在の絶望的状況の中では樂天的

遊びのへいさの運動

あの政治の季節の中で、ぼくらはオッサンでもない、我々でもない、空虚さを、身もたて感じ取ってしまったのではなかったか。だが「政治」にイヤ気がしたからと言って、穴倉に逃げ込んでみたところで、その「我々」から抜けきれてはいない。

あてんとうさまの光を避けて、薄暗いサテンの奥に籠り五時間六時間。たばこの煙をさめたコーヒーと共に飲み下す。或いはジャン狂で。出るのはタメ息と左翼的言辭。閑学の野球部の叔に言わせれば、眼の一番トロンとしていたのが全共闘くずれ。

白和り続けてきた奴でも、元全共闘ツラして二ヒッていられる。腐った鯛は、そんな通中と大差なくなつてしまった。ニヒルぶったところで、底はすぐ知れる。自分の生活の場は確保してあいて、怨念の爪を研ぐ、もあるまい。自分の周囲になんとかある「我々」の中に身を沈め、或いは「我々」

に進むこと ②個人の内的衝動による行動をすること ③反まじめで豊かな運動を行なうこと、を主張しているというのが私の解釈である。しかしそこには「遊び」とは何か、何うとは何か（市川H・Y）或いは「それでは現実の何いではないのか」ではないか（神戸Y・H）といった疑問に答えるべき運動論はない。尾関氏は、活動家の「へいさ」人間的ぶりが運動の非大衆性の一因であるとしている。しかし、々々平連をも切り捨てながら、如何にして運動に大衆性をもたせるのかは明らかにしていない。活動家が現に抱えている問題を把握せずに、運動の限界を打ち破ることはできない。

「何もやらなくなつていた僕を、とにかくやっていこうという気にさせてくれたが、ちよつと開き直りがあるみたい。『楽しんでる運動に破産や敗北はあらへん』というのには確かにそうだが、それではあまりに自己満足ではないのか」というT・N氏（金子）のアンケが最も一般的なことばだろう。私も樂天的にやることには、何の異論もないのだが、この文には不満も残る。尾関氏の再登場をお願いして、アンケ整理を終えることにする。（北見 ナミ）

「我々」からの脱却

を口にするので他人の運動の陰に身を隠している。そうした「我々」の状況から抜け出すにはどうすればいいのだろうか。

我々がやるのではない。ぼくがやり、あなたがやり……そこで初めて「我々」は内実あるものとなる。もうここいらで「我々」という便利な隠れ蓑にオサレしようではないか。そう、自分のことは自分でやるのだ。やりたいことがあれば、それをやることだ。何もしたくないのなら、それほじっとしている以外にない。無理矢理に自分を駆り立ててみたところで、またボシヤッてしまうだけだ。しかし、本当に何もしたくないのか、本当に。そのことを絶えず自分に問いかけていかないと、それは怠惰というものだ。やると言っても、大したことが出来るはずもない。だがその気があるのなら、いくらちっぽけなことでもやるべきだ。それが自分のできることなら、そこから始めるしかない。

犬死一番絶後蘇生

積極的にだめな野郎、という矛盾した存在がこの世にいてもあもしろいのではないか。あれはだめだだめだ、わからんわからんと頭を抱えていじこまっているのは、だめな野郎。わからんわからんと言いつつ、わかるように精進するのはいい野郎。マラソン選手でいるのはシンドイとして、受動的犠牲性になるのもいい野郎。

世の中、特に大学などは、いい野郎がみちみちている。そんな中にいて、消極的にだめな野郎であり続けることさえ容易ではない。とことんだめになり、積極的にだめな野郎になつてやろう。

だめな同志諸君。ストリートにいこうぜ。（「あろく」4号より4東京大学駒場 中本館455A最首研究室）

よく自身を含むヘシヨボリ人間に對して、政治的になれなげと下らないことは言わない。だが、非政治反政治と言つたって、あのハンパウほどのお祭りもできないではないか。好き看なら好き看らしく、その好き看ことをやりぬこうではないか。

「個」の視点から、やりたいことを自分でやる。それは、実はそれ自体で、社会体制・社会秩序に對するラディカルな叛逆である。

今の社会は組織の論理で貫かれていて、同じように組織の論理に貫かれていた反体制運動は、巨大な体制秩序に圧殺されるか消化吸収されてしまふ。相手の土俵の上での「革命的」行動より、「個」の視点をもち行動は、ドロップアウト風かも知れぬが、体制秩序をその根底から揺さぶるものとなる。

また同時に、自分のやりたいことをやる。自己表現運動は、個性の発現をより恐れる管理社会に對する尖鋭的な闘いである。

さらに言えば、自分でやるということ、他者が自分を代行・代表することを許さないことである。これはつまり、権力と権威の否定である。

政治的行動が政治的意味を持ちうるとは限らず、逆に反政治的行動が政治的に有効なこともある。自分のやりたいことをやる、それだけのことで良いのだ。ニヒルぶったり、変な「政治」に絡め取られることなく、口ッリであれ映画であれ、或いは放浪であれ、カテゴリーなど気にせず、あつ始めようではないか。

（杉原 哲生）

日本の夏

8月15日(予定)
・知一画開催地 山形県飽海郡西

・思想・方法・出口・アツ・人種

・地域・行野・年令・性別をこを

のりこえに自由な個人・集団の

ぶつかりあい……

・総合的人間性空間の創出

・民衆のあそびのイメージの復活

・70年代をこの世界に生きている

という意識のもとに我々は向う。

・民衆のあそびはあつたろうか?

すたれいく古い祭のなかに

あらたに生きた若者のな

かに……

・今まで行われてきた祭のな

かに……

・我々は、断絶……という感を抱く。

・新に情状をひらく、人間と人間

との、連綿……とは……そして我々

な叩きつける……夏の陣……とは……

……夏の陣……

・この時代諸説を思ひ出すタイトル

・企画は、我々ひとりとの空間にあ

けるぶつかりあいならふれあいを

というイメージにふり、祭……を模

索した結果生まれたものだ。

・非人間的な社会の現状における

我々の笑われた人間性の回復の場

として……

・あらゆるなかり合い、こた

わりを超越した自由な個人・

集団の連帯の場として……

・なつてあった民衆のイメージ

・ルギッシーな祭典の復活

・の場として……

・すなわち我々は、イメージとし

て……この企画を叩きつける

ことなすべきい。

・そのイメージを具体化、拡大し

て、準備実行していくのはあな

たのだ。そんなあなたに同様の

ぶつかりあいなら思想・方法・行

野・地域・年令……をのりこえに

新なる方向性をもった連帯は可能

となるであろう。

・そして老若男女のみなさんのな

い空間の共有は、なつてあった民

我々はあつた人間であらうと
する者の結集を願ってやみせん。
あつた迷ひを参加により、迷ひを参
加する。

・一画びなげ方法 誌

・行散形式……各地域参加者
あつた自主的行動によるインフ、ピ
ラ、クチコミ……

・統一形式……通信発行・移動編
集・設置……15日、455日
未定、657月(現地)……制作も、
「夏の陣」……10号より↓
日南市鹿島町……14鹿島社
号(鹿島町)

環境フェスティバル 概要

・東京の催しは八月下旬以降の土
曜午後から日曜午前まで。

・地方の催しは市街地中心の町を割
らないため、ほぼ一ヶ月の間をあ
く。

・会場では原則的に固定の展示を
しない。風船などによるスライ
フ
エスを含めた流動的表現、演劇など
を流動性をもち。

・参加者は自然環境を損ねず、環
境の自然生態との結びあつた場を
現する。深夜の一定期間、静寂に
あつて自然そのものの息づき、コ
ミュニケーションの時間をつくりたい。

・「MAN & ACTION & COM
MUNITY IN ENVIRONMENT
ENT」……14鹿島社
号(鹿島町)

スケジュール

8月7・8・9日

・岐阜県中津川・花の湖……

・参加費……1,000円

・連絡先……岐阜県中津川郡下町
中津川町内主白本フォークジャン
ボリー実行委員会、東京都渋谷区神
宮前4-1-15東京セントラルパ
ート2-19号、大阪府北区花野町
1-1山宮ビル302号昌幸舎

・なぜ?……さつたくなんの意味も
ありせん。なぜとかなんのため
にかな、そんな加体ぶつたことはや
めさしう。大儀名行の必置な人は
それぞれ好きな理ウツをつけて下さ
い。

・花の湖は丁度日本のヘソのよう
な位置にありせん。ヘソにはマな不
可欠です。日本中のヨミのような人
間が、この日を目ざしてパロソロ、

モツモツ集って、一時的に日本のヘ
ソのヨミになつたつていいじやない
かと思ひます。想像するだけで、自
分のヘソのマツリを職な運いさる
るうな快感が湧いて来るせん。

・「マイナー手帳」……

・「ワークジャンボリー」……MOJO
・WEST……これらの祭を新しい風
俗として体制に消化されてしまふ
かもしれない。しかし若年層は口
を叩きつけた、自由な個人の流動
的で不定形の連合を各地に具現化
していけば、逆に体制を消化するこ
ともできる。

・うたごえ運動のうたに、何かに利
用するのではない。音楽を媒介とし
て新しい意識の人間性、期限を限
たけりスレをするのだ。69年頃の
術家の闘争も、結局は体制の与え
た力により外へ出ることはできな
かった。なつての反政治というス
ロ
ー
ー
ンも政治的でないなつた。

・新しく生まれ出たものに対して、
古いイメージの付随した既成のこ
と
ばをつけるのは不適当だ。あの伝説
となつたワッドストローク共和国を、
どうして「共和国」などと叩きつ
どこに支配命令するものないたの
な。演奏者と聴衆という行進をこ
え
た現然一体のフニギ……、名付
られる以前の新しいものなのだ。

・「不退転の闘い」と言い、行動の
復讐をもちながら、いつな言葉
に先行され、カスメとられていつ
あの不毛の闘いの時期を経て今……
俺たちはすべてに失敗したけれど、
いけるところまでいこうじやないな。

・政治に固執するものは軍事技術王
義へ走れ。未来のユーロピアなん
みたくもない。「なくある」……未
は現在を規定し、俺たちを歴史的必
然へ導いていく。俺たちは今、変
ていくんだ。白い言葉は

Do your own thing.
(神口……)

